

第10号

2007年2月15日発行



Community Currency Toda Oar

TODA オールネット

出合い ふれあい 支え合い

地域通貨



<http://www.toda-oar.net>

Tel&Fax.048-421-3709

地域通貨戸田オール運営委員会

戸田市ボランティア・市民活動支援センター内

335-0022 埼玉県戸田市上戸田 1-18-1

戸田市役所敷地内

市民活動・地域コ

主催 戸田市市民活動推進委員会 戸田

上戸田地区コミュニティ・ワークショップ・グ

共催 戸田市町会連合会 地域通貨戸田オール運営委

後援 戸田市社会福祉協議会 笹目コミュニティ協議会

市民活動・地域コミュニティ講演会

協働によるまちづくり P.2

協働の象徴として

戸田市ボランティア・市民活動支援センター .. P.4

チャレンジショップ 町会めぐり、人めぐり

鍛冶谷町会長 関 隆義氏 P.5

戸田農園開園

学校訪問

新曽中学校 校長 山本礼二氏 P.6



協働特集

一人の力は小さくても協力すると大きな力になる。
協働ってなに？ 協働って素晴らしい！

TODA オールネットとは……

次号は2007年5月15日発行予定です

戸田市内全域を対象に行う地域通貨戸田「オール」の試験運用を幅広く皆さんに理解していただくために発行するものです。もちろん、それだけではなく各市民活動団体の活動状況、また市役所など公的機関からの告知、各地区ごとのちょっとしたニュースをご紹介します媒体です。戸田市役所コミュニティ推進課と各町会の御協力により、市内全戸配布を行います。

私たちは、この「TODAオールネット」が、皆さんの生活をもっと楽しくするような戸田市のタウン紙になるよう頑張ります。

「協働」に向けて～コミュニティ推進課より

近年においては、市民の価値観が多様化し、市民ニーズも多様化・複雑化している一方、地域や社会の課題を市民が自らの問題として捉え、自主的・自発的に取り組む傾向が多く見受けられるようになりました。また、行政においては、市民を公的領域の新たな担い手として捉える動きが出てきております。このような中、豊かな地域社会を構築する手法として、「市民と行政との協働」が大きな注目を集めています。

本市においてはコミュニティをテーマ型コミュニティとエリア型コミュニティの二つの面から捉え、前者は『戸田市市民活動推進委員会』を中心として、『戸田市市民活動推進基本方針』の4つの重点施策の具現化に努めるとともに、市民活動の活発化に向けた様々な活動を展開しております。

後者は『地域コミュニティ推進計画』に掲げる「モデル地区の指定」に基づき、地域住民が『上戸田地区コミュニティ・ワークショップ・グループ“上戸田「ふれあい」10”』を組織し、地域における課題の解決に向けた実践活動を展開しています。この二つの取り組みについては、個別に展開するものではなく、重なる部分が多くあることから、むしろ緊密に連携しながら推進していくべきと考えられます。

以上のことから、今回は市民活動と地域コミュニティの両面において、高い見識を有する講師を招致することをもって、今後におけるコミュニティ活動の活発化に向けた取り組みの参考とすることを目的として、市民団体と行政が協働して講演会を開催しました。



市民活動・地域コミュニティ講演会・紙上載録

協働によるまちづくり～市民の立場、行政の立場～

NPO法人地方自立政策研究所

理事長 穂坂 邦夫氏（前志木市長・元埼玉県議会議員）

1. 協働はなぜ必要か

地方自治は大転換期を迎えている。また今、日本は成熟時代といえる。

成熟社会＝高齢化社会。「地域」の役割は大きく、助け合う地域社会、心の豊かさが必要。そのためには地域コミュニティが大切である。その原点が“協働”なのだ。

教育再生会議に呼ばれるが、その中で「PTAに通達する」などと言われるが、親がPTAに出てこないし、払えるのに給食費未納という問題が出ている。学校と家庭の落差を埋めるのも、地域コミュニティだ。

日本は世界でワースト1の赤字国家。なんとかして国家財政を立て直すことが至上命令。タイタニックと同じで「潰れない」と思っているだろうが、際どいところに来ているのは確か。地方交付税は下がり、国からの支援は少なくなるだろう。今まで、地方自治体はやりたい放題で、行政は肥大し続けていた。また市民も任せていたから「お任せ民主主義」だったのだ。

しかし低成長時代を迎え、市の財政も家計と同じで「入るを量りて出づるを制す」。金、人が少ない中で充実したサービスを続けるには、市民との協働が不可欠だ。そして市民はオーナー。行政が破綻したときは市民が大変なことになる。その

ためには自立心が大切。自ら律して、相手の立場を考えること。それが協働への第一歩。そしてお互いのことを認め合うことだ。

2. 市民と行政の立場を考察する

市民、各種団体は、それぞれ多様な価値観を持つ。さらに自主性を持っているのだ。行政から「あれやれ」と言われて「はい」というのは、行政の下請けに過ぎない。やはりNPO、団体などは自立性と自主性を持たなければいけないのだ。

NPO、団体などは、協調できるコミュニティ組織にならなければならない。行政もその立場を再認識する必要がある。行政は非営利独占的サービス企業。弱い人も強い人も共生できる地域社会をつくらなければならない。それが行政哲学だからだ。そして様々なことが「前例主義」。しかし、これは長年の体質なので「しょうがない」と思ってもらえない。

必要なことは、“協働”することでいいことがあるんだと市民の多数に理解してもらうこと。行政、市民の両方が宣伝し、協働して「おいしい果実」が成ることを示さなければならない。そして「食べる」のは市民なのだ。

3. 協働の仕組みづくり「市民と行政の融合と独立性の維持」

今、東国原宮崎県知事を若い人は圧倒的に支持している。議会との関係が課題となるだろう。そ

こでうまくいかないと「政治力がない」と書かれてしまう。しかし、「政治力」というのは、妥協することであり、相手の言い分を聞いてしまうこと。そうではなく、知事自身が正しいことを言っているのかどうかを報道してもらわなければならない。

その議会、議員だが、彼らは市民の代表であるという誇りを持っている。市民は、それを理解しなければならない。市民から議員に「一緒にやろう」と言ってほしいのだ。得てしてコミュニティ活動をしている人たちは、議員を相手にしていない(笑)。ただ議員は市民を大切に思っている。議員の立場も考えてアプローチしてほしい。

協働とは、市民と行政の融合。市民と行政が一体化すれば、ローコストになる。オーナーの視点

がサービスに反映される。そしてニーズを考えたサービスも行えるのだ。そのためには自主性が必要で、徹底した情報公開が必要になるのだ。そして、その仕事の判断は、公募した市民に入ってもらい評価すればいい。また有償ボランティアという考え方もある。

市役所の職員はプロ。プロでなくてはできない仕事と、アマ(市民)でもできる仕事を明確にする。市役所がやるべきことは、プライバシーを守ること、公権力的なこと、教育・福祉など。「百聞は一見にしかず」よりは「百見は一触にしかず」。市民(サービスを受ける側)の視点を大切にしてほしい。そして、市民も行政も議会も、お互いに理解しあって、いい戸田市をつくってほしい。

これから地域通貨が重要になる

～穂坂邦夫氏と中島委員長の対談から～

講演会直後、穂坂邦夫氏と中島委員長の対談が実現。

中島委員長「今日は参考になるお話をありがとうございました。さて、穂坂先生としては、これからの“協働”の中で地域通貨が果たす役割をどうお考えでしょうか」

穂坂氏「重要だと思っています。もっと拡大していく必要があるでしょう。先ほど話した行政と市民、行政とNPOという“協働”というのは、広いようで狭いものです。しかし、地域通貨というのは、行政、市民、NPO、そして商店が絡んできますから、かなり広い範囲になるんですね。それも商店が入るということは、ビジネスが絡むということですから、遊びではなくなるわけです。これらをどう構成していくのか、連携していくのが大事なことになります。

なかなか難しいことではと思いますが、関わっている皆さんが『難しい』ということを感じることでしょうね。歩みがるくてもいいんです。互助の精神を広める一つの手だてでもあるでしょうから、しっかりとしたものを形に残すということが大事だと思います」

中島委員長「なるほど。ちなみに志木市では地域通貨の導入は検討されませんでしたか」

穂坂氏「発想はありましたが、無理でした。地域通貨は市民がその気にならなければいけないではありません。行政は応援する立場でしかない

のです。思うに、その原動力は市民が9割で行政は1割程度でしょう」

中島委員長「戸田では、まだまだですね」

穂坂氏「いや、“種まき”は行政でいいんです。その後の手入れを市民の皆さんにやってもらわなければなりません。育てるのは市民の力です。ただ費用は問題ですね。行政から自立する制度を整えていく必要があるでしょう。

地域通貨は住民同士の互助を原点にするものだと考えています。顔が見える範囲で使うものでしょう。換金をどこでするのかをはっきりすれば回ると思います。例えば、資格を持った保育士を雇うのは大変です。しかし、保育のボランティアができる人たちに登録してもらい、その支払いを地域通貨で行えばいいですね。

きちんとした制度を整えながら、市民の力を育てないといけませんね。がんばってください」

中島委員長「ありがとうございます。時間はかかるでしょうが、続けていこうと思います。今後ともよろしくお願いします」



▲対談後の穂坂氏と中島委員長

「協働」の象徴として

～戸田市ボランティア・市民活動支援センターが開設して半年～



平成18年7月1日に開設した戸田市ボランティア・市民活動支援センターですが、約半年を経て、だいぶ認知されてきており、市内で活動しているボランティア・市民活動団体も多く登録しています。社会貢献活動を行っている団体同士が、活動領域が異なっても交流・連携できるような環境を整え、その活動の幅が広がるようサポートすることがこのセンターの究極の目的です。

例えば、環境と教育、教育と福祉、福祉とITなど、それぞれの団体が連携し、好影響を与え合い、共同事業を行うことによってシナジー効果が生まれることを期待しています。

登録団体の中でも異色な、我が地域通貨戸田オール運営委員会。事務局が5年にも亘って漂流してきたわけですが、センターのご好意により事務局機能を移設でき、センターの機材を使用する際に「戸田オール」を使えるようにしてくれたことはありがたいことでした。

ますますの発展が期待される市民活動団体の中間支援組織である戸田市ボランティア・市民活動支援センターですが、半年が経過した中でその「位置づけ」を記してみたいと思います。

埼玉県内では8番目

「日本一のNPO立県」を政策に掲げている埼玉県では、様々なNPO支援施策を打ち出しています。その効果があって、県内のNPO法人数が1,029団体（県認証：平成18年1月30日現在：戸田市は18団体）にまで増え、全国でも上位にランクされるようになりました。

現在、県内のボランティア・市民活動団体を支援する中間支援施設は9施設あるようで、市町の数からすると少ない印象です。戸田市のセンターは8番目に設立され、公設半公営（市民・社会福祉協議会・行政）形式で運営されています。

他自治体から頻繁に視察

埼玉県内で中間支援施設を整備しようという自治体が増えてきており、その参考とするため支援センターへの問い合わせや視察も増えています。

センターは、既存の施設（バス車庫）を改修し、有効利用しています。市役所敷地内にありますので、駐車スペースも多く、利用に便利です。また、「戸田市民活動支援サイト」というインターネットを利用した双方向性のセンターホームページが開設されており、その管理・運営はNPO法人に委託されています。行政との協働が実現され、そのあたりが参考になると思われているのかもしれませんが。

ブログの開設

ボランティア・市民活動に関する内外の情報が掲載されている「支援サイト」ですが、サイトを補完する形で、センター自身の情報を発信するためにブログが開設されました。センターで起こったその日の出来事など、ほのぼのとした記事が掲載され、訪れた方の気分をほぐしているようです。記載者は、センターで働くサポートスタッフです。

サポートスタッフの充実

センターでいつも対応してくれるサポートスタッフは、有償ボランティアの14人。ローテーションで「勤務」しています。サポートスタッフをまとめているのが、リーダーとサブリーダー。二人とも社会福祉協議会の職員です。



サポートスタッフは、ボランティアコーディネーター養成講座を受講し、そこで学んだことを実践するためセンターで働いています。

結びに・三者共同運営の今後

センターの運営は、社会福祉協議会、NPO法人、サポートスタッフの市民、行政職員などが融合されて担っています。こういう形態は県内では珍しい例と言えます。この運営を統括するのが、戸田市ボランティア・市民活動支援センター運営委員会で、市民・社会福祉協議会・行政の三者で構成されています。

一見、変則的な構成ですが、それぞれの得意な分野で実力を発揮し、融合されることで独特の運営が成されています。開設して半年あまりですが、団体の活動がより活発になるようベストな運営形態を目指して行ってほしいと思います。（安部）

空き店舗を活用して「アンテナショップ」

～商店街ににぎわいを取り戻す社会実験～

市経済振興課と商工会では、昨年11月から今年の1月までの3ヵ月間、下戸田にある「戸田中央商店会」の空き店舗を利用した、短期型のチャレンジショップを実施しました。

この事業は、実際にシャッターが閉まった店舗を開け、賑わいを取り戻す方法を検討するための社会実験で、「だれでもアンテナショップ」という店名で実施されました。

写真・陶芸品の展示即売、主婦サークルの手作り日用品販売、フリーマーケット、手作り教室、福祉作業所で製造されたどら焼きやクッキー、手芸品などの販売など、14の個人・団体が出店し、1日で50人集客した店舗もあったそうです。

このショップの管理運営にあたったのは商工会の消費者グループ「商業サポーターズクラブ」。



地引よう子さん
(商業サポーターズクラブ)

そのメンバーの地引よう子さんは「アツという間の3ヵ月でした。アンテナショップは1週間毎に店が変わり、店によって来店する方が全く違うという楽しさがあります。年配の人には、チョットしたお茶のみをする場、そ

のお友達作りも出来たら楽しいと思います」とアンテナショップの魅力、今後の利用アイデアを話してくれました。



また、このショップに出店した福祉作業所「ゆうゆう」の職員の方は「いままで、イベントなどへ参加をしていましたが、街中で長期の販売をしたのは初めて。今回の出店で、地域の人に各施設や作っている物を知ってもらおうという点で、アンテナショップを十分活用できました」と情報発信や市民との交流の場としての利用で、次の事業への自信につながったとのことでした。今回販売した「どら焼き」は一つ一つ手作りで「昔ながらの味、手作りの味がする、大量生産には無い良さがある」と消費者の評判も良く、口コミで買いに来てくれる人もいたそうです。

チャレンジショップはPR方法の工夫や使い方などまだまだ課題が多いですが、人と情報が交流する拠点の一つとして、商店街への来街者増加と、活性化につながるよう、今後の展開に期待したいものです。
(園田)

町会めぐり、人めぐり Vol. 10

～鍛冶谷町会長 関 隆義さん～

“協働によるまちづくり”



上戸田地区のほぼ中央に位置する鍛冶谷町会は、地域における連帯感を高めるためのイベントや取り組みを活発に展開しているとお聞きし、町会長の関さんにお話を伺いました。

「鍛冶谷町会は、行動が早く、積極的な方が多く住んでいる町会だと思います。『華かいどう21』が始まる時も、町会としては市内で真っ先に手を挙げたと記憶しています。それが今の『鍛冶谷緑地』です。管理はもちろん町会でやっていますよ」と関さん。町会行事で何かをやる時には、準備の段階から大勢の人が駆けつけるそうです。

また、関さんは同町会にある本町商店会の会長も務められており、「地元の商店が元気ならば、地域コミュニティにも良い影響があると思います」と商店会の行事にも力を入れています。

続いて、今回のテーマである『協働によるまち

づくり』についてもお聞きしました。「今、上戸田地区全体で取り組んでいるワークショップグループ“上戸田「ふれあい」10”に参加しています。

これは、地域住民によって構成され、地域の課題や問題などを皆で解決し、より良い地域コミュニティを作ろうとしているグループです。将来的な目標は『上戸田地区コミュニティ協議会』の設立ですが、今は人と人とのつながりを強めることを重視して活動しています」とのこと。その成果のひとつが、昨年開催された『上戸田ふれあい祭り』で来場者が1,000人以上という盛況ぶりでした。最後に、地域通貨戸田オールについてお聞きしました。市内のお店で戸田オールが使えることについては「うちの店でも、戸田オールを使う人がいますよ。戸田オールの普及・啓発のため、今後も協力したいですね」と語る関さんは、実は商店会連合会の会長として、商店における戸田オールの利用には、かなりのご尽力をいただきました。

これまでの鍛冶谷町会の良い部分を大切にしながらも、新たな取り組みに積極的な関さんのお話に、『協働』という言葉が思い浮かびました。

(早川・大森)



戸田農園が開園（菜種油会員募集）

皆さん、旧大信村（現白河市大信地区）に戸田農園が出来ました。大信地区は昨年末、白河市として正式

に姉妹都市から友好都市となりました。

さて、以前から地域通貨戸田オール運営委員会では「菜の花プロジェクト」が検討されていました。この「菜の花プロジェクト」とは、戸田市の道満や荒川の河川敷に菜の花を栽培し、これを戸田市の観光資源とし、その後は種から搾油して菜種油を作ろうというものです。そして、できた菜種油を農業祭や商工祭で戸田オールと交換をしたいと考えました。しかしながら、市内の候補地を得るのには時間が掛かる様子でしたので、20年以上のお付き合いのある福島県の旧大信村へ調査に行きました。

大信地区では化学薬品や添加物など一切使っていない、昔ながらに焙煎した後にスクリュウ式搾油機

で搾った菜種油を生産しているのです。そこで健康によく安全で安心な菜種油を地域通貨戸田オールとして応援し、「戸田ブランド」として育てたいと考え、現地の共同組合と委託栽培のお約束をしました。大信地区での栽培実績を見ながら、市内での展開を皆さんと共に考えていきたいと思ひます。

また、てんぷら廃油のリサイクルによるBDF（バイオマディーゼル燃料）の活用へと発展できれば地球温暖化防止に役立つと考えています。その循環を助けるツールとして、地域通貨戸田オールを活用いただきたいと大きな夢を抱いております。（水内）

只今、会員募集中です。会費は2,000円で限定40名です。特典は837gの菜種油1本と1000オール贈呈。菜種油の交換時期は10月の予定です。

お申し込みは お電話で 048-421-3709（運営委員会事務局）まで。2月20日～23日の各午前中受付します。なお定員になり次第、締め切らせていただきます。多数のご連絡をお待ちしております。



山本礼二校長（左）と
芦原小・前田一男校長。
強力コンビ（！）のお二人です

学校訪問「おじゃまします!!」 Vol.5

戸田市立新曽中学校 山本礼二校長

新曽中は、市立図書館とスポーツセンターに隣接した、歴史的にはまだ28年という若い学校です。

去る1月23日（火）に生徒指導研究発表会が新曽中で行われ、公開授業を見させていただきました。この発表会では、芦原小学校をはじめ、学区内の小学校から大勢の先生方が参加し、新曽地区の小・中学校の連携の強さを感じられました。そんなご多忙の山本校長にお時間をいただき、お話を伺ってきました。

山本校長の2度にわたる海外赴任の貴重な体験談を聞かせていただきました。最初の赴任先は、オーストラリアのシドニーだったそうです。その後、また海外の日本人学校に行きたいという「夢」を持ち、その「夢」が実現したのが、5年前、ブラジルのリオデジャネイロでした。

2度目に赴任されたブラジルの日本人学校では校長先生として。リオは治安が非常に悪く、登校日数

の半分は銃声の聞こえる日々だったそうです。いつ教室に銃弾が飛んできてもおかしくない状況の中で、まず山本校長は、窓には防弾ガラス、スクールバスは防弾バスに改造し、屋外プールには屋根をつけて砲弾から子供たちを守る対策をとったそうです。日本ではとても考えられないことです。

そんな山本校長が日本に戻られて、新曽中に来たとき、「この学校はなんて危険なんだ！」と思ったそうです。当然、日本の学校には防弾壁などあるはずがありません。でも山本校長は、日本で怖いのは、砲弾ではなく不審者だといいます。不審者から子供たちを守るため、新曽中で不審者対応訓練を行ったそうです。普通、小学生対象に行うところを、あえて中学生でやったのです。

お話を聞いて、山本校長はとても行動力のある教育熱心な方だと思いました。自ら動いて子供たちを守り、教えて育てる—これを実践してきた先生です。地域との連携をさらに広げようとしている山本校長、これからも「通いたくなる学校づくり」頑張ってください。（高本）

【法人会員】 ニッケン建設(株)、戸田中央総合病院、ファミリーマート田中上戸田店、(有)古河屋(こが屋文具)、(株)平和不動産、戸田市商店会連合会、戸田市商工会、戸田市商業協同組合、戸田中央産院、中島孝雄税理士事務所、サポートセンター・ウィング、美笹商店会、(株)全通、(有)セルフ、(株)アイ・ライフ、(有)三京、戸田中央リハビリテーション病院、須藤歯科医院、(株)富岡製作所、喜沢一丁目商店会、(株)工房、五葉建材(株)、(株)池田紙工(株)KNDコーポレーション
(敬称略・順不同、平成19年1月1日現在)